

オクラ栽培情報

平成 28 年 6 月 6 日
北越後農業協同組合
青果物集出荷センター

☆今年の生育状況(6月5日現在)

「ハウス栽培」

- 4月上旬～5月下旬の播種。水稻育苗後の作付は、移植栽培を中心に定植2週間前頃から播種をはじめ。直播、移植栽培ともに播種後の生育はおおむね順調に推移しているが、連作障害やコガネムシ等の害虫被害が見られている圃場もある。被害の程度が大きい場合は速やかに薬剤散布を実施しましょう。ハウスオクラの初出荷は、5月31日より開始された。

「露地栽培」

- 4月下旬～現在まで播種。GWに高温で推移したこともあり5月13日頃の直播が多いが、その後夜間に低温が続いたりして発芽不良や生育遅れがでた圃場も見受けられる。害虫の発生は例年より早く、ネキリムシが発生している圃場には、早期ガードバイトAを株元散布しましょう。また、これからの時期はアブラムシの発生が懸念されるので、発生前防除を徹底しましょう。



☆今後の管理について

- ハウス栽培は天候に応じて、日中はサイドを換気し夜間は閉めて生育適温を確保しましょう。
- 発芽不良や葉ヤケが発生した箇所は、種の蒔き直しや苗の補植、マルチ穴のふさぎ等を速やかに実施しましょう。
- 今後、生育が進むにつれ病害虫の発生が懸念されます。下記を参考に薬剤防除を実施しましょう。

◎アブラムシ類:暑さが続くと害虫の発生が増えますので、予防的防除からしっかりと実施しましょう。

薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数	備考
スタークル粒剤	3g/1穴	収穫14日前	1回	本葉1～2枚までに株元に散布しましょう。
オルトラン水和剤	1000倍	収穫開始7日前	1回	開花したら使用しないようにしましょう。
アドマイヤーフロアブル	4000倍	収穫前日	3回	
モスピラン顆粒水溶剤	4000倍	収穫前日	3回	コガネムシ類にも効果あり

※アブラムシは、残効性の高いスタークル粒剤→オルトラン水和剤(収穫開始7日前まで)の体系処理できっちり防ぎましょう。

◎その他病害虫:生育初期はネキリムシによる食害が発生しやすいので注意しましょう。

対象病害虫	薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数	備考
ネキリムシ	ガードバイトA	1g/1穴	生育初期まで	3回	発生初期に株元散布。
ワタノメイガ	アファーム乳剤	2000倍	収穫前日	2回	オオタバコガにも効果あり。
葉すす病	トップジンM水和剤	1500倍	収穫前日	3回	
うどんこ病	アミスター20フロアブル	2000倍	収穫前日	2回	高温時の散布は、薬害注意。

◎除草:株元は手による除草を実施し、通路はクワまたは薬剤散布を使用回数以内で実施しましょう。

区分	適用雑草名	薬剤名	使用時期	10a当使用量(希釈数量)	使用回数
除草剤	畑地1年生雑草	バスタ液剤	雑草生育期(収穫前日)	300～500ml(100～150ℓ)	3回

☞生育診断や農薬の使用についての相談は、青果物集出荷センター担当：渋谷・太田(☎41-0770)または各ふれあい営業所へご連絡下さい。